

仏祖の照鑑を仰ぎつつ

四国大会開催

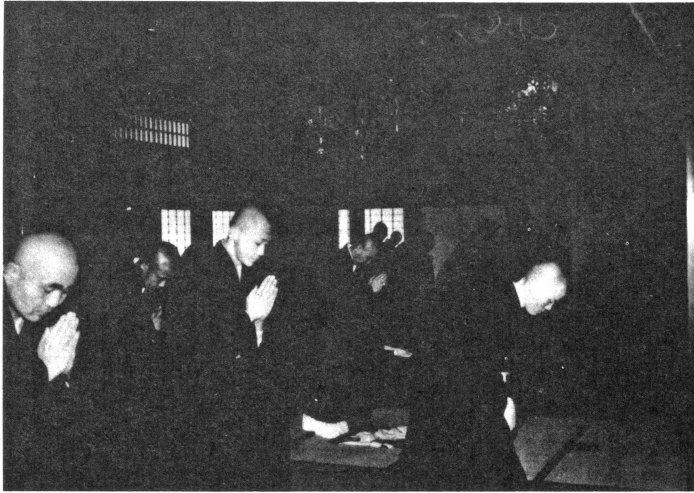


発行所
曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務所内
発行責任者 吉岡純孝
TEL.03-454-5418F

青年宗侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年宗侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

二月二十二日・二十三日

の両日、四国曹青の大会は寒厳の新居浜瑞応寺を会場に開催された。四国曹青の大会は五十八年十一月に四国曹青が中国曹青から分離独立して以来毎年開催され今回は第三回であった。

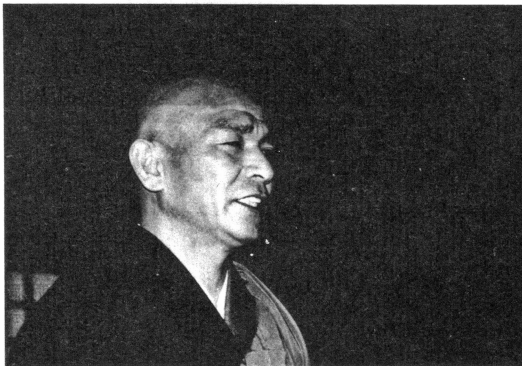


瑞応寺にて

目次	
四国大会	2
各地の活動	3
青年非行と家庭の問題について	4・5
此寺に和尚あり	6
インタビュー 柏木由紀子さん	7

四国とは言え四国地区の曹洞宗寺院は約二百三十か寺程である。また、大半が愛媛県に存在しているところから、ともすれば愛媛大会となりがちである。今回は特に各県の連絡を密に運営を計つたということであったが、廃仏棄釈で寺院が撃滅した地区だけにこの思いやりが曹青の発展に必要と感じさせられた。また、中国・近畿曹青からも参加者があつたことも四国曹青を大いに勇気づけさせた。

会場の瑞応寺は堂長老師のもと、三十余名もの雲納が法にしたがつた僧堂生活を行っている。大会参加者も山規に則つとり研修を重ねた。近年、全曹青はもとより各地方曹青で開催されるの大会の多くが仏縁を広める事に主眼を置き、一般参加の多少によつて成果を云々する傾向があるだけに僧堂での大会は参加者に爽やかな印象をあたえた。



四国曹青会長 村上徳存師

破草鞋

◎西門識者間で、死と臓器移植の問題及び安楽死問題が、論議されはじめている。——世界の動向も国内医家間の議論でも、すでに決論を得ようとする段階にいてある。

◎おそきまと言ふ批判ではない、常に新しく古い生命にかかわる世界の課題の、心の分野の初発言は、世界各宗教家に向けられている。宗教家の宿命なのである。
◎疑しんば世論の袋だたきに合す事態となつたにせよ、教理教論に基づく勇敢な志を、宗門全体で構築しようとするのは早計であらうか。
◎と同時に、臨終期における僧の荷負う現代的役割は、どの様でなければならぬのか。葬儀の執行に立ち会ふ役割のみではなかつたはずである。むしろ極論と言われようが、人の活動期から臨終期まで、分担保を求められていると考えるべきではないか。
◎枕元に嫁を呼びよせ、長年におたる看病の札を厚く述べ、さらに孫と近所にいる妹を呼び、それぞれに札を述べた。そして、自分の手をそれぞれが握られてくれるように求めて四十五分後に逝つた。筆者をとりあげてくれた産婆さんであり、三月十四日のことであつた。
◎死際の見事さを讃えられる禅僧も何人かいる。……眼の前に闇の糸を照らしたまま逃げきり三福依を唱えなかつたこと中有までも……佛果菩提にいたらんまでもおとならざるべし……非正臨終もまた関担様はお説きになつてゐる。
◎臨終と呼ばれたり、かけつけられる和尚こそが、冥心立命を思へうる高僧だと思ふか如何。
◎僧家制度以前には、者どりの儀礼があつたと言ふ、人間の活動期最中にこそ生死の問題を広宣し納得して貰はるる行脚が必要である。臨死にかかわる諸課題は、それからでもおそくない。



第三回 四国大会

金曹青後醍醐の集い研修会

「食と体」

四国路にも春の気配が感じられて来た。二月二十二日、二十三日の両日、昭和六十年度四国地区大会曹青大会、並びに全曹青後醍醐の集い研修会が、新居浜市の瑞応寺専門僧堂を会場に開催された。

今大会は、テーマを「食と体」として、専門分野からは愛媛大学医学部小川泰史先生を招きさらに、瑞応寺堂長・橋崎光老老師、堂監・橋崎通元老師に講師をお願いし、来賓六名、青年宗侶四十余名の参加を得て開催された。

二月二十二日(土)

正午より受付開始。参加者も順次到着し、開会式と順調な滑り出しとなった。

午後一時からの開会式では、四国管区長老師はじめ、全曹青役員、遠来の大友曹青会員を迎え、四国曹青会長(大会会長)長村上徳存師を導師に各会長が両班を勤め、山内大衆三十余名の随喜を得て厳粛に行なわれた。

開会式典では、四国管区長・高木武海老師、全国曹青青年会会長・吉岡樫憲師、さらに先回の中国大会を成功させ、また近隣地区曹青でもある曹青より鈴木章純師(全曹青副会長)の心のごも

不足部分も認めつつ、植物蛋白を多用した「僧堂の食」が今後の成人病予防の一つのヒントになるのではないかと強調された。参加者も改めて僧堂の工夫を知られる思いであった。

「真実内徳無うして人に 貴びらるべからず」

つづいての講演は、堂監、橋崎通元老師の「当願衆生」と題した講話であった。僧堂の生活から古仏を慕うお話しは日々に行じられているだけに聴衆の感激はひとしおであった。

行鉢

今回の会場は僧堂としての厳しき、又綿密なる行事と一体になり、会員各位の実践により道を求めるとい目的もあって、薬石には堂長老師を飯台導師に應量器による行鉢となった。緊張の中で行鉢は喫茶喫飯の貴さを自覚し、得るところの多き薬石の一時となった。

振鈴鳴る

二月二十三日(日)

午前四時、けたたましい鈴の音に覚醒する。洗面殿が山内に鳴り響き、行事の始まりである。四時二十分、僧堂外庫に就いて晚天坐、続いて朝課、僧堂行鉢。玄米粥はまだ小粒であった。

午前八時、小休の後、法堂にて朝参。山内修行僧からの接待を受けたが、その



九州曹青フル回転

新年を迎え各曹青も活動が計画されるころであるが、南九州地区はすでに六十九年度大会を決定し、今マフル回転である。

九州地区大会
今回も福岡開催を決定

恒例の大会は福岡曹青(赤染哲彦会長)を担当として六月十八日に開催が決った。(八幡 ホテル センター) 講師には元新日鉄釜石ラグビー部監督の「森重長崎曹青」

第九回 東海曹洞宗青年会大会
第七回 全国曹洞宗青年会「禅文化学林」
「南こうせつコンサート」を開催

四月二日、三日にわたり開催するこの大会は釈尊降誕を祝い、一般市民多数の参加を得て行なわれる。

この会は青年僧の大会であるとともに釈尊降誕を機として多くの人が仏縁を結ぶよう様々な工夫がなされている。

たとえば、静岡はお茶の産地であるが、神との関連に着目する人は少ない。この会場では抹茶から煎茶そして甘茶を呈して解説を求めている。また、本山の生活紹介、仏像彫刻の実演、生花展、そして釈尊の一代記と親しめる「花まつり」を期している。

日程表

4月2日(豊田グラントホテル)	15:00 受付	16:00 講演 鈴木泰山老師 禅宗の地方発展	17:30 懇親会	20:00 宿泊 可睡 青
4月3日	5:00 振鈴 晚天朝課	7:00 小食	10:00 遠州平和塔落慶法要	11:00 白象行列(各地より)
			以下掛川市生涯学習センター	
	13:00 灌仏会法要	14:00 講演(酒井大岳老師 釈尊一代記)	この間学習センター備物広場にて	
			花まつり各種行事	
	16:00 コンサートホール開門	16:30 開会 あいさつ コーラス	17:00 南こうせつコンサート	19:00 終演

此を閉じた。

この大会を振り返って、人間生きの為に食べるのか、食する為に生きるのか、もう一度じっくり考える必要がある。現代の社会は食生活が豊かになり、贅沢のしほうだいたいとなって、このままでは「食」によって人間が滅んでしまうような気がします。原点に返って考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

たがこれに協力する。また、県下は大きく四地区となつていて、それぞれ坐禅会などの活動が組まれている。

佐賀曹青(向 隆光会長)

六十年度には会期設定、十周年を迎えるため様々な行事を予定している。今年その足がかりとして曹の集いに参加した子どもから生活意識のアンケート調査を行なう。この目的は「家庭本来の姿」が失われつつあるとの認識に立ち「二ころ」の問題を追及する。

また、行事としては十月二十二日に因賑会(佐賀霊雲寺)を行なうが、ゲスト講演として「遠藤 実氏」が予定されている。

熊本曹青(紫安達純会長)

金額の天童日祥登を六月六日に長崎出發で行なう。数年来、計画して来たものだけに多数の参加が予定されている。

つた祝辞があつて開会式を終えた。

講演

医学の立場から

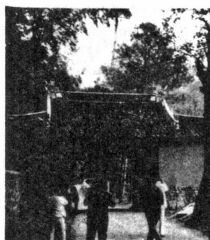
午後二時より、愛媛大学医学部の小川泰史先生の講演をいただいた。先生は同時に十医療学院付属病院内科部長として活躍されているだけにきわめて豊富な現場を持たれている。「食と体」のお話には現実の医療状況をかきま見る思いであった。

僧侶の前でのお話は初めてのことで幾分緊張されていたが、日頃の熱心な研究とともに、今回は永平寺、瑞応寺の献立表を取り寄せられ僧堂における食事内容を一般家庭と比較され、カロリーな

元新日鉄釜石ラグビー部監督の「森重長崎曹青」

長崎曹青

佐佐保市の花まつり慶讃法要が「ママさんコーラス」の参加を得て開催が決つた。

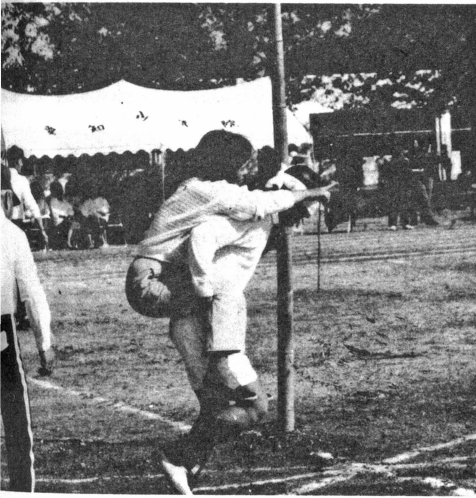


天童寺

非行と家庭の問題について (上)

青年僧へ期待するもの

小泉智謙
(愛知少年院長)



運動会 初めて母を背負う

私の勤務する少年院へ最近入院した少年のプロフィールを紹介したい。

一、T少年 一七歳・窃盗・道交法違反・実父母あり、共働き、家庭内のことは、男まきりの母が取りきっている。父は非常に口べた、小心で母の言いなりになっており、なるべく家庭から遠ざからうとしている。夫婦仲は悪い。

一、Y少年 一八歳・逮捕監禁致傷・両親は離婚しており、父親は行方不明、母親は再婚しており少年との関係は不良。弟は、養護施設に預けられている。実兄は、母と同居しているが、引受けを拒否している。

一、H少年 一八歳 住居侵入・窃盗・実父・継母であり、継母も仕事をもち、家庭を放任、少年と実父との関係は、極めて悪く、むしろ継母との関係の方が良い。異母弟二名、異母妹二名あり。

一、K少年 二〇歳 窃盗・道交法違反・実父母離婚、実父はその後死去。実母は再婚し、一子を設けるも離婚。その後内縁の男との間に子供を設けるが、正式の結婚はしていない。

一、O少年 一六歳 暴力行為取締法違反、道交法違反。
実父は、内妻(義母)の借りにいるアパートに入りびたり、少年ら子供三人は、間アパートの別の部屋で寝泊りし、食事は実父、義母の居室で、すましているが、親子関係は希薄。実父は、少年の再三の非行にあきれては保護観察は全く失っている。

一、M少年 一七歳 恐喝・傷害
実父は、少年二・三歳頃外出、実母は精神病で入院していたが五五年死亡。少年は三歳頃からずっと施設暮らし。中学卒業した年の七月、叔父の所を経て実父に引取られたが、父が仕事上出張して、ほとんど接触はなかった。暴力団に入ってから時は会っていたが、父子間の親和感とはほとんどない様子。

我が曹青を語る(2)

青森曹青
会計 今泉尚道



本州の北端に位置し、三方を海に囲まれている青森曹青は、現在六十三名の正会員と十五名の特別会員を擁しております。本県は、宗務所八教区に別れており、以前は、各教区あるいは地方単位で独自に曹青が組織されておりましたが、十年前に連絡協議会の組織され現在に至っております。

しかし、活動的には昭和五十二年十一月に弘前長勝寺に於いて開催された東北曹青青年会青森大会で協力があった以降はこれといった全体の活動は行われませんでした。この三、四年会員の自覚の上とともに全県的な事業が行うようになって来ました。

寺族研修会を開催

会員ばかりでなく、寺族間の親睦を深める意味も含め、「青年会寺族研修会」を開催したことも特色です。

先ごろは、お寺にの生活に即した「研修」ということで福井の小玉法衣

「東北大会でお待ちします」



店さんに「足労を願ひ「衣はついて」というテーマで多方面にわたるご指導を受けたり、又、昨年の弘前市曹青院住職川津三老師による「精進料理」と仏儀の作り方という研修会には、青年会寺族四十数名を集めるまでになりました。

その他、県部青森市にて会員を集めての托鉢、ボランティア活動と曹青としての活動が一つづつですが前進しているように感じしております。

もちろん各単位の青年会に於ける禅の集い、托鉢、法式、声明研修、詩徳研究等の活動が随時行なわれていることも付け加えておきます。

天童山拝登の計画と二、度目の東北大会を受ける。さて、六十一年は本会も創立十周年を迎えたい行事として、

- 【役員紹介】
- 会長 大田宏見(弘前市)
 - 副会長 上田祥祝 (八戸市)
 - 副会長 溝口和孝 (青森市)
 - 事務局長 三國典昭 (青森市)
 - 会計 今泉尚道 (弘前市)
 - 監事 苫米地孝雄 (弘前市)
 - 監事 (七戸町) 松宮義孝
 - 監事 (鯉ヶ沢町) 鯉ヶ沢町



以上の事例を見ていただきますと、お行われて確定教育を受ける少年の非行を

て五月中旬より天童山拝登を計画し、宿ではありますが高祖大師の御足跡に触れ、宗侶としての法悦を新たに安心の資

人物紹介 此寺に和尚あり

愛媛県西滝寺住職 福村俊弘師

愛知県大聖寺副住職 太田善久師

喜多郡長浜町白滝
 脇川風、日本に「レ」所
 しかない開閉橋、滝と
 モミジの有名な所に生
 を受け、スポーツ万能
 明るい性格の持ち主
 愛媛曹青の副会長で
 あり、初代の四国曹青事
 務局長でもある彼の
 足跡は輝かしい。若手
 のホープである。

昭和四十九年駒沢大
 学を卒業、五年帰山
 寺に安居、五十年帰山
 したものの、学生時代
 からの夢であった「音
 楽へのあこがれ」を押
 えきれず、「寺を手伝
 いながらでも出さるじ
 やないか」と言う師僧
 の意見も無視、その年
 の四月には渋谷、その
 の前にクリクリ頭につ
 ぶった姿で立っていた。

「太田さん、これ何
 ですか?」と思わず叫
 んでしまった。彼の手
 に大書された伝道句に
 である。

「自然を信じ自分を
 信じ、そして他人を信
 と合える世の中に」
 と書かれている。
 車の購入を考えている
 た時から伝道句を考え
 ていた。書き屋さんに
 来てもらったが、寺の
 名前については解し
 たものの伝道句につ
 いては「お高さん本
 書のですか?」
 と何度も何度も聞かれ
 た。車の下取り額がさ
 がること、ここにも行
 けないよとか、さんざ
 ん言われた。意に解さ
 ない太田さんの態度に
 書き屋さんはとうとう

引き受けた。二百の時は何も言わな
 かった。百、それどころかすつかり信頼し
 てくれたようになった。
 太田さんの話しを聞いているうちに、
 「これ何ですか?」と叫んだ自分のほう
 がプロ僧侶として恥かしい、と思えさ
 た。布教方法に限りなくあるのだ。
 この太田さんの寺は愛知県でも北の外
 れにある。山ま
 しの寺院で通
 称は、山寺のお
 高さん。名古屋
 まで、時間と
 聞けば、失礼な
 がら恨まは多い
 とは思えない。

この寺で寺報
 を出している
 聞いた。せいぜい五十部か、と勝手に想
 像したら何と八百部、しかも立派な印
 刷が施されている。
 最近号を開。巻頭に何と、
 「坊主とは、過去の栄光の上にあぐら
 をかいていやつら」とある。

愛媛曹青の



たとい、
 渋谷では某パートのレストランに勤
 めた。ウェイターである。そこは共産
 係者の出入りが多いこと知られていた。
 食事姿でもつければ、ポケットに隠し
 持ったメモテープを無言で渡し、何
 とかしてレコード会社へのわりをつけ
 ようと必死だったといふ。
 一日中、銀の
 トレンチを着た
 に、スパゲッテ
 イの注文を取
 ウエイターの仕
 事は重労働に
 したものの、
 棒のよきに
 なった足をひき
 ずりながら、下
 宿に帰り、酒を
 煽ってパタンキ
 ュの「毎日であ
 った。頭張るぞ」と心
 に誓えども体がついて来なくなった。夢
 はわずか八月で挫折、思い出だけを残
 して帰省となってしまった。
 そして五月の月日が流れた。田舎で埋

愛媛曹青の



「これは、三年前、大本山永平寺で修
 行當時、トイレの壁にらくがきされてい
 たものです。僧侶たるもの少なくとも
 過去の栄光にあぐらをかいて、とは言
 われなくない。」と補足されているが、
 この補足こそ太田さんの本心と見た。

「おしよさんお元気で
 ますか。去年もお世話になり
 ました。今年も坐禅だけ
 でした。たいへんよい
 経験させて下さってあり
 がとうございました。」
 毎年聞く山寺の子ども各
 宿参加者の礼状である。特
 色ある会は年々参加者が増
 えている。

愛知第一曹青では昨年末に会として初
 めて巨録をした。一番喜んだのは太田さ
 んである。団地有教で太田さんは日々行
 じているからだ。「水を掛けたら、
 暴言をあげせられたりするぞ、でもが
 ばれ、太田さんの激励がある。
 現在、愛知県第一曹青宗青会の副会
 長であり会の良心である。

もれかけた天才音楽家に突然チャンスが
 めくって来た。
 NHKFMフオーリクスタジオに
 そしそのテープがレコード会社の耳に
 とまった。昭和五十八年八月、NHK歌謡
 番組でデビュー。作曲した一八月
 曲であった。自分でもい
 った。思った。手におよび、寺
 レコードの手に「あ、寺
 は師僧に任せて、もう一度、
 もう一度勝負をかけたらう
 か。夢は大ききくくれあ
 った。そのやさき、頼みの師僧
 が倒れた。「かん」であった
 い葛藤も幾日か経たした。
 「寺を守りながらでも音楽は出さな
 今ではカラオケです。彼は陽気である。
 今の子ども坐禅会、梅花講と布教活動
 に邁進している彼の夢が、四国で開花
 することを願ってやまない。
 頭張れ! 天才音楽家。

佐賀県曹洞宗青年会調査
子ども達は今!!
 子どもの「はじめ」「暴力」とい
 った問題が無視できない社会問題と
 なっている。「心の荒れ」の原因が
 何であり、どう対処すべきかは僧侶
 にとっても重要な課題である。
 今回、佐賀曹青で、この問題に真
 正面から取り組むべくアンケート調
 査が行われた。対象は禅の集いに
 参加した五、六名も児童である。
 設問は生活、一般、環境、学習
 など六十三項目にわたる。
 尊敬できる人として父親が第一位
 偉いと思う人の第一位に天皇
 の六〇％、両親の注
 文第一位がこずか、増
 やせや興味がない。
 今回の資料が佐賀
 曹青自らの手で作り
 出されたものだけに
 充分活用されると思
 う。また、今後分析
 も進み宗教者としての
 提案がされること期待
 したい。希望者は実費で配
 布する。
 B5版 一七頁
 申し込み
 千八百九 三二
 長崎県東松浦郡相知町相知
 妙善寺内
 曹洞宗佐賀県青年部
 一部 二〇〇円(送料込み)

図書出版 新製品紹介

瑞応寺編
僧堂の行持
 僧堂には古としての本来の姿が
 あるだけに今でも出る。なら
 「安住したい」と願う諸兄も多しはず
 だ。また、懐かしい時代と思いつ
 ても只勤たことを振り返り意
 義を知りたいとも思うもの
 である。
 この書は「宗門に真
 の坐禅僧が姿を消し、
 自らの存在に無関心
 とすれば、宗風は地
 を払い、行持綿密の
 威儀は空文化し、こ
 という認識のもとに
 「宗門の将来を託し、
 社会の期待に応じ得る
 道人は何処で育成される
 が、実に僧堂を捨て他に法
 孫鉄漢は打出されたと確信す
 る」という確固たる自信をもって書
 かれたものである。それゆゑ、僧堂
 の行持は行事でなく、その意義を示
 し、また、衣袈裟の作りかた、作法
 の心得などに綿密に示されている。
 巻末には橋本忠光老師の「僧堂の
 しおり」一調息のしおりもまとめ
 られている。
 題字は鎌谷仙龍老師
 A5版 一七五頁
 申し込み
 千七百九二
 愛媛県新居浜市山根八一
 瑞 応 寺
 一部 一〇〇円(送料実費)

子ども達は今!!

瑞応寺編

僧堂の行持

三笠會館

A restaurant feel at ease

本 店 〒104 東京都中央区銀座5-5-17 芝本通り TEL.03(571)8181(4F)
 西 店 〒104 東京都中央区銀座4-2-15 西銀座デパート2F TEL.03(566)4031
 本 店 〒104 東京都中央区銀座5-12-8 本州製靴ビル8F TEL.03(541)3505
 東 店 〒104 東京都中央区銀座5-12-6 足立製靴ビル12F TEL.03(543)3621
 向 島 店 〒131 東京都墨田区墨田1-4-54 白鷺会館内 TEL.03(610)0078
 新 宿 店 〒160 東京都新宿区新宿3-15-17 伊勢丹会館2F TEL.03(354)1729
 鶴 沼 店 〒251 神奈川県横浜市鶴沼海岸1-11-23 TEL.0466(34)5851
 花 こよみ 〒104 中央区銀座4-2-1 西銀座デパートB1 TEL.03(566)4102
 ウェルテス 〒156 世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋S.C南館6F TEL.03(709)1278

